四月八日の始業礼拝から、あっという間に一か月以上が過ぎました。始業礼拝の日、子どもたちに、

元気→コロナにかからぬように手洗い・マスク・密を避ける。特に給食中はお話ししないように気をつけて、元気に過ごすこと。

やる気→何事も嫌々やるのではなく、進んで自分からやってみること。

根気→元気に、やる気を持って色々なことを粘り強く続けること。

勇気→友達が困っていたり、いじめられたりしていたら、黙っていないで、声をかけたり、「ぼくはそういうひきょうなことは嫌いだな。」と、勇気を持って言えたりすること。

和気→和気藹々（あいあい）の和気。聞きなれない言葉だけれど、誰とでも、仲良く、楽しく、コミュニケーションがとれること。

本気→今お話ししたようなことを、真剣に手を抜かず、やり続けること。

大切な「気」六つ。「鬼滅の〇」に似ているけれど、違う。「気六つのよい子」作戦を今学期は展開していこうというお話をしました。

それをよ～く聴いてくださっていたのでしょう。五年生のあるお子さんが日記にそのことを書いてくださっていました。書いてくださったご本人に確認の上、日記の画像を頂きました。

ご覧ください。こちらです。

私の拙い話を立教のユリのマークに託し、見事にまとめてくださっています。

この柔軟な発想・創意工夫、まさにこれから大切にしていかなければならない、「非認知能力」そのものです。

始業礼拝の日、知識や記憶力については、残念ながらＡＩにはかなわない。でも、ＡＩには元気も元気がないもない。ただ、指示された仕事をこなすだけ。しかも電源を抜かれると、ヘナヘナ～となってしまう。

ＡＩには根気はある。与えられた仕事を黙々とこなす能力はある。強い。それでも電源を抜くとヘナヘナ～となってしまう。

ＡＩには勇気はない。ただ与えられた仕事を黙々とこなすだけ。勇気は人間独特のものかもしれない。だから大切。

ＡＩには和気はある。「ぼくは、コーヒー好きなんだ。」なんて話をすると「私も好きです。」なんて返事をする。機械がコーヒーを飲むか？和気はあるけれど、かなり怪しい。しかも、電源を抜かれるとヘナヘナ～となってしまう。

ＡＩはいつも本気だ。手加減などはしないだろう。でも電源を抜かれるとヘナヘナ～となってしまう。と、いうようなお話もしました。人間の持つ「非認知能力」を十分に伸ばしていけるような学校、その中から子どもたちの自己肯定感を高めていけるような学校を目指していきたいという思いを伝えました。

さて、五年生のお子さんの日記では「気六つの子ども作戦」となっています。ドキッとしました。そして思い出しました。谷川俊太郎さんの詩を。

谷川俊太郎　作

まんびきはしたことないけど
わたしはひとのこころをぬすんだ
ぬすんだことにもきづかずに

へやにかぎはかけないけど
わたしはこころにかぎをかける
かぎのありかもわからずに

うそはついていないけど
わたしはほほえんでだまってる
ほんとのきもちをだれにもいわずに

いいこだから　わたしはわるいこ

出典『子どもと悪』河合隼雄　（岩波書店）

語呂合わせで「よい子」作戦とはしたものの、教師にとっての「よい子」を求めないでくださいねと、五年生の彼に言われたような気がしたのです…。

（立教小学校校長　田代　正行）